

2016 年（平成 28 年）
5 月 19 日（木曜日）

日 本 経 済 新 聞

障がい者の生活や就労を支援する社会福祉法人の進和学園（神奈川県平塚市）は、東北のドングリから育てた苗木を、東北の森づくりによる防潮堤プロジェクトに取り組み団体に提供する。公益財団法人瓦礫を活かす森の長城プロジェクト（東京・中央）などにこれまで約 4000 本、5 月末に宮城県岩沼市で実施される植樹に新たに約 6000 本提供する。

進和学園は広く一般から寄付金を募り、ドング

東北の防潮堤に苗木



ドングリや木の実から植樹用のポット苗を栽培している

進和学園が 6000 本提供

リや木の実から植樹用のポット苗を栽培し、公共の場所に寄贈する「いのちの森」事業を 2008

津波被害の地で再生の根

年から始めた。東日本大震災では東北や北関東の沿岸林約 3660 杉が流出や水没、倒伏などの大きな被害を受けた事態を重く受け止め、防潮林の再生に取り組み団体に寄贈することを決めた。

提供する樹種はスダジイやタブノキ、アラカシ、シラカシなどの常緑広葉樹が中心。種から育てた自然の樹木は根が深く広がる性質があり、防潮林として最適で、瓦礫を活かす森の長城プロジェクトや一般社団法人森の防

潮堤協会（仙台市）などに提供し、実際の植樹にも進和学園などから職員を派遣し協力する。

いのちの森づくり事業では公園や学校の植樹に、スダジイなどの高木から、イロハモミジ、ヒメユズリハなどの中木、シャリンバイやムラサキシキブなどの低木まで多種類の樹木を約 18 万 5000 本出荷してきた実績があり、被災地の植樹を積極的に支援すること、復興への協力と福祉の両立をめざす。